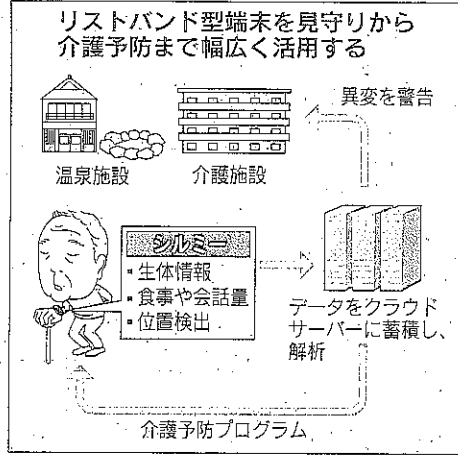


高齢者介護予防 リストバンドで

食事量など測定 個別プログラム作成

秋田のアルファシステム

医療システム開発のアルファシステム(秋田市)はTDKや秋田県などと連携し、リストバンド型端末を使った高齢者の健康管理システムを構築する。脈拍など生体情報を収集して体調の異変をいち早く把握できるようにし、認知症や糖尿病などの予防、改善にも生かす。あらゆるモノがネットにつながる「IoT」環境で、ウェアラブル端末を見守りだけでなく介護予防にまで活用する。



TDKのリストバンド型のウェアラブル端末「シルミー」は生体情報だけでなく食事や会話の状況も記録できる。

認知症や糖尿病 体調の異変 素早く把握

TDKのウェアラブル端末「シルミー」を使う。事業には仙北市立田沢湖病院やフィデア総合研究所(山形市)なども参加。事業の新規性が認められ、7日に総務省の「IoTサービス創出支援事業」に採択された。最大約6000万円の事業費が補助される。

10月から来年1月にかけて、玉川温泉(仙北市)や仙北市内の温泉プール、介護老人保健施設で最大300人の高齢者にシルミーを装着してもらう。実証実験する。脈拍や皮膚温などの生体情報をリアルタイムで収集し、クラウドサーバーに蓄積。基準脈拍数や適正

消費カロリーなどを設定したアルゴリズムで自動解析する。体調の異変を検知した場合は施設側や家族に警告する。集めた生体情報などを元に個人向けの健康プログラムを作り、提供する。シルミーは食事量・時間の記録や会話量の測定もでき、生体情報など合わせ認知症や糖尿病、鬱病の予防や改善に生かす。当初は田沢湖病院の医師がプログラムを作成するが、将来的には自動作成する。秋田県内に多くの工場があるTDKは今回の事業などを通じて高齢者の声を集め、24時間装着してもストレスの少ない製品の開発に生かす。現在あるウェアラブル端末は若者向けやスポーツ用が主流。TDKは高齢者が使う、医療用に特化した製品の開発を進める。秋田県は65歳以上の割合である高齢化率が約35%

東日本大震災と熊本地震で被災した岩手、宮城、福島、熊本の4県のコメで造った日本酒「絆結(きむすび)」が完成した。城南信用金庫(東京・品川)と4県の14信用金庫が連携したもので、売上金の一部を復興支援のために寄付する。関係者が26日、岩手県と宮城県を訪れ、披露した。絆結は城南信金が企画したプロジェクト。原料のコメは4県の各信金が調達した「ひとめぼれ」をブレンドしたもので、醸造(福

復興へ 15信金が日本酒

福島で醸造、被災4県のコメで



岩手、宮城、福島、熊本の4県のコメで造った日本酒「絆結(きむすび)」

島県津坂下町)が純米大吟醸酒に仕上げた。絆結は1本当たり2000円を被災は復興への願いや支援への感謝の気持ちを込めたという。同信金の担当者は「おいしくできあがり、評判がよい本の限定製造。城南信金がいれば来年以降も8月に都内で開く商談会で、続きたい」と話している。

円満な 事業の引継ぎ

AOBA AOBA 承継推進 検索

東日本事業承継推進機構 0120-82-1150

%と都道府県で最も高く、仙北市は約39%と県平均を上回る。高齢の湯治客が多い玉川温泉では救急搬送が年間約50件起きている。今回のシステムを使うことで体調の異変を素早く捉えて周囲に知らせることで救急搬送の半減や要介護認定率の低下、介護職員の労働環境改善などにつながる。システムは仙北市の介護施設などに販売し、2017年度の予想売上高は870万円。18年度以降は県内外に広げられる。